

簡文館みどころマップ

簡文館の建物について

簡文館は、1922(大正11)年の大学昇格による一連の建設工事のなかで、1928(昭和3)年に図書館として竣工した建物と、1955(昭和30)年に増設された円形の建物で構成されています。円形部分は、建築家村野藤吾の代表作の一つと目される建築です。大学図書館建築の代表的なものであるとして、2007(平成19)年に国の登録有形文化財に登録されました。また、2018(平成30)年には、大阪では初めての「戦後の建築」「大学の建築」「村野藤吾の建築作品」として、大阪府指定文化財に指定されました。

簡文館の歩み

- 1922(大正11)年 大学昇格
- 1926(大正15)年 図書館設計案完成
- 1928(昭和3)年 図書館竣工
- 1948(昭和23)年 新制大学発足
- 1955(昭和30)年 村野藤吾設計の図書館増築工事竣工
- 1978(昭和53)年 円形図書館1階のピロティ部分を事務室に改築
- 1985(昭和60)年 総合図書館開館、旧図書館を「簡文館」と命名し、考古学等資料室、東西学術研究所、人権問題研究室が移転
- 1994(平成6)年 関西大学博物館開館
- 2005(平成17)年 書庫解体工事
- 2006(平成18)年 簡文館増築棟竣工、年史資料展示室を開設
- 2007(平成19)年 国の登録有形文化財(建築物)として登録
- 2012(平成24)年 耐震改修工事を実施
- 2018(平成30)年 大阪府指定文化財に指定

関西大学博物館

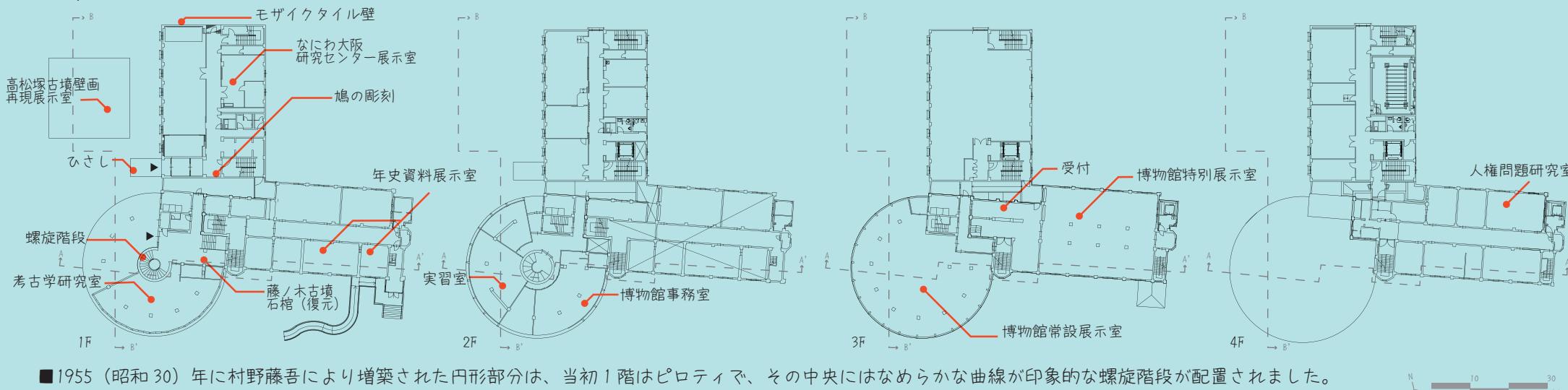


〒564-8680
大阪府吹田市山手町3-3-35
TEL: 06-6368-1171
FAX: 06-6388-9928
E-mail: hakubutsukan@ml.kandai.jp
HP: www.kansai-u.ac.jp/Museum/



Cover Illustration: Hinako Murakami ,Design: Kento Nishida

PLAN



■ 1955(昭和30)年に村野藤吾により増築された円形部分は、当初1階はピロティで、その中央にはなめらかな曲線が印象的な螺旋階段が配置されました。中2階は、螺旋階段を囲んで部屋が並んでおり、2階は天井が高くゆったりとした空間となっています。

考古学研究室



1952(昭和27)年に関西大学教授として就任した末永雅雄(1988年文化勲章受章)により開設されました。以降、考古学を志望する学生を引き連れて、奈良県明日香村の高松塚古墳や川原寺裏山遺跡、近年では、円満寺山古墳群(岐阜県海津市)や都塚古墳(奈良県明日香村)など数多くの遺跡の発掘調査を行っています。

鳩の彫刻

この彫刻は、1952(昭和27)年に竣工し、2005(平成17)年に解体された岩崎記念館別館(旧大学院ホール)から移設されたものです。鳩で覆われた外壁2階の北東角にあたかも本物の鳩が佇むような姿で取り付けられていました。建物は建築家村野藤吾の設計によるもので、鳩の彫刻も村野の手ほどきにより作られたものです。



なにわ大阪研究センター展示室



文部科学省から採択を受けた「なにわ・大阪文化遺産研究センター」等の、大阪の歴史、文化、芸能、景観等に関する大型研究プロジェクトによる研究成果を展示しています。

モザイクタイル壁

このタイル壁は1955(昭和30)年に竣工し、2005(平成17)年に解体された第1学舎1号館エントランスホールの壁面から移設されたものです。村野によりデザインされた抽象的な図柄は、青、緑、黄色などのタイルによって描かれています。



建物の外観



柱が壁面を区切り、その間に焼成時に塩水を使うこげ茶色の塗焼きタイルが貼られています。2階のバルコニー部分は、こげ茶の他に青・緑・黄のタイルを用いてモザイクが施されており、豊かな表情となっています。縦長の窓が8つ並び、窓の上部にはガラスブロックが組み込まれています。さらにその上には18箇所の横長の高窓があります。天井には円形のガラスブロックによる天窓もあり、多様な光が差し込みます。



1928(昭和3)年竣工部分は、学内初の鉄筋コンクリート造の建物です。鋭くとがった塔の形を模した装飾用の付柱(ピラスター)が均等に配置されています。その付柱の間に、縦長の窓が並び、2階と3階の窓の境目は、はざま飾り(トレーサリー)で装飾されています。階段室は塔屋とし、全体的に垂直性を強調したゴシック様式となっています。外壁は、白いモルタルを刷毛やササラで書き付けた、凹凸のあるドイツ壁となっています。

Highlights

①年史資料展示室



1886(明治19)年11月の関西法律学校創立から、一大総合学園に発展した今日までの関西大学のあゆみを、時代ごとにさまざまな資料でわかりやすく説明、展示しています。

②博物館特別展示室



博物館実習展や季節ごとの企画展を開催しています。

天井の高い大空間となっています。堅固な建物ですが、柱や壁に板材で腰壁をめぐらすしつらえにより、軽やかな印象の空間となっています。

③博物館常設展示室



重要文化財16点と重要美術品12点を含む、考古資料約700点を展示しています。

根幹の大日本新聞社第5代社長本山彦一が蒐集した約2万点のコレクションは、一括しまでの登録有形文化財となっています。

④藤ノ木古墳石棺(復元)



朱(水銀朱)塗りの家型石棺です。これは、奈良県生駒郡斑鳩町で発見された藤ノ木古墳の石棺を復元したもので(凝灰岩製)、石棺がどのようにして石室に埋納されたかを実験で確かめるために作られました。

⑤ぶどう模様のレリーフ



昭和3年に建った建物内部は、廊下や階段には1.5mほどの高さまで布目タイルを貼り、その上部から天井までは漆喰が塗られています。また、主要な部屋につながる扉は上部を半円形とし、ぶどう模様のレリーフが飾られています。



⑥螺旋階段



千里山キャンパスの中で最も村野らしい優美な階段。村野が設計した階段の美しさには定評があります。薄いスラブ(床)の階段と、社交ダンスのしなやかな腕の振りを連想させる木製手すりのなめらかさに村野らしい光っています。

⑦ガラスのひさし



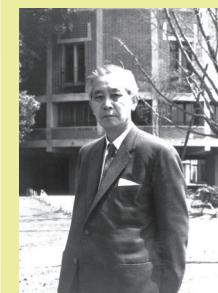
1952(昭和27)年に村野の設計により竣工し、2005(平成17)年に解体された岩崎記念館別館から移設されたものです。ガラスの屋根や自由な曲線の支柱など、アールヌーボーを彷彿させるデザインとなっています。

⑧高松塚古墳壁画再現展示室



高松塚古墳の壁画を再現展示しています。「世紀の大発見」といわれる高松塚古墳壁画の発見は、1972(昭和47)年3月、網干善教助教授(当時、のち関西大学名誉教授)が関西大学の学生たちを率いて行いました。

村野藤吾(1891-1984)



佐賀県唐津市に生まれる。早稲田大学理工学部卒業後、大阪を本拠地として活躍する。旧そごう大阪店(現存せず)、梅田吸気塔など大阪の都市景観に欠かせない建築物を設計した。また、渡辺翁記念会館(宇部・重要文化財)、世界平和記念聖堂(広島・重要文化財)、尼崎市庁舎、カトリック宝塚教会、日生劇場(東京)など、全国各地に300を超える作品を残している。1967(昭和42)年、文化勲章を受章。

関西大学の千里山キャンパスでは、1949(昭和24)

年から約30年の間に40近くの建物の設計をしている。施設の更新により失われたものも多いが、約半数の施設が現存している。

<千里山キャンパス内の村野建築の例>



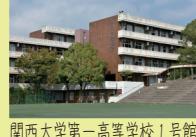
円神館



KUシンフォニーホール



第3学舎



関西大学第一高等学校1号館



B-B' SECTION